

クリーンよこすか

50周年記念誌

令和7年3月 クリーンよこすか市民の会

目 次

挨拶	クリーンよこすか市民の会会長	青木 勝	・・・ 1
祝 辞	横須賀市長	上地 克明	・・・ 2
	横須賀市議会議長	大野 忠之	・・・ 3
所 感	クリーンよこすか市民の会 広報部会長	上田 滋	・・・ 4
	中央地区会長		
寄稿文			・・・ 5

・ 継続の50年を更に繋げて	安浦地区会長	竹之内 憲義
・ 続けることの大切	山崎地区会長	中谷 始
・ 進行中の危機「プラごみ汚染」	堀の内地区会長	青木 勝
・ 黄みどり色のメッシュベスト	上町地区会長	五ノ井 正志
・ きれいな町へ	上町第二地区会長	石井 裕一
・ 坂本地区	坂本地区会長	飯塚 喜昭
・ クリーンな町を守るために	汐入地区会長	白井 治房
・ オックリンの夢	追浜地区会長	藤島 紀雄
・ 町内ゴミ問題について	田浦地区会長	西宮 哲夫
・ 地域の宝を守るため	逸見地区会長	鈴木 公男
・ 美しい町は皆の手で	衣笠地区会長	長瀬 澄子
・ クリーンよこすか運動	大津地区会長	唐澤 清男
・ 住みやすい環境を次世代へ引き継ぐために	浦賀地区会長	山田 藤男
・ 元気で楽しいクリーン活動	鴨居地区会長	鈴木 哲
・ 歴史と文化の街久里浜の更なる発展	久里浜地区会長	大谷 均
・ 綺麗な街を次世代に	長沢地区会長	安部 久夫
・ 津久井地区市民の会の活動	津久井地区会長	加藤 隆一
・ 武町内会のクリーン活動	武山地区会長	齊藤 光太郎
・ 風光明媚な街の美化活動を	大楠地区会長	新倉 繁
・ 親子クリーンピクニック	長井地区副会長	光山 一彦

寄稿文

・クリーンよこすか推進部会の活動	推進部会長	太田 信吉
・50周年の感謝	横須賀商工会議所	工藤 幸久
・地域とともに生きる	横須賀青年会議所	濱田 真悟
・子どもたちの未来へつなぐ クリーン活動	横須賀市PTA協議会	杉山 亮
・クリーンよこすかの精神をつなぐ	横須賀市小学校校長会	白井 宏一
・地道な活動の積み重ね	横須賀市中学校校長会	平石 拓
・町をきれいにしたい	横須賀市資源回収協同組合	藤田 和秀
・点から線へそして面へ	横須賀市老人クラブ連合会	加藤 春樹
・クリーン活動により変化した意識	横須賀商店街連合会	越川 昌光
・私の思うクリーンよこすか	京浜急行電鉄株式会社	鈴木 覚
・地域の皆様と共に	東京電力パワーグリッド 株式会社横須賀事務所	服部 明弘
・50年の活動を未来につなぐ！	湘南信用金庫	鷺尾 精一 風呂本 将憲
・これまでも、これからも	かながわ信用金庫	平松 廣司 高瀬 清孝
・美しい街は最高のおもてなしに	株式会社トライアングル	秋澤 智信
・ふるさと横須賀が好き	クリーン清掃応援隊	山口 里美

活動紹介 25

50周年記念事業 29

記録・資料編 47

・クリーンよこすか市民の会50年のあゆみ 48

・年表（平成27年度～令和6年度） 50

・クリーンよこすかポスター・標語入選作品 60

・クリーンよこすか市民の会について 98

協 賛 101

“私たちの町は私たちの手によって”を合言葉にした市民総ぐるみの『クリーンよこすか運動』は、今年50周年を迎えました。市民・多くの企業・団体皆様の長年にわたるご支援とご協力のおかげと心から感謝申し上げます。

50年間の節目として環境について考え、それを守り続け、次の世代にしっかりと引き継いで行きたいと思えます。

1973年に清掃工場（ごみ焼却場）の建設に関して東京で『ごみ戦争』が発生、当時は高度経済成長時期で大量生産・大量消費型生活、都市ごみは急速に増加・多様化して来ました。このごみ戦争は、当時の国民意識を大きく変え横須賀においては1974年「ごみ対策市民委員会」が発足、さらに発展して『クリーンよこすか運動』となりました。

現在この運動は、各地区組織も多く結成されて、着実に市民生活の中に定着しています。地域社会の在り方が変化している中、クリーンよこすか運動がきっかけで顔の見える関係を築くことが出来ています。この運動の道のりは遠いと感じていますが、新しい時代を築く子供たちにも伝承してもらう為に、運動のやり方・イベントの開催等を模索しています。

私たちを取り巻く環境は大きく改善されて来てはいますが、新たな問題も発生し、このままでは海洋ごみは増え続け人体にも影響が及ぶ危険性が有ると指摘されています。今後は海洋プラスチック汚染問題にも注視していかなければならないと感じています。

ごみ問題の解決は、様々な法律が制定されていますが、一人一人が意識して少しずつごみを減らす取り組みを行うことが大切だと思います。今後も自分たちの町を愛する心と、温かい心があふれる町にしていくことを目標に、“私たちの町は私たちの手によって”を合言葉に、市民皆様の協力を得ながら『クリーンよこすか運動』の清掃・環境美化活動を推進していきたいと思えます。



クリーンよこすか市民の会
会 長 青 木 勝

「クリーンよこすか市民の会」が50周年を迎えられましたことに、心よりお慶び申し上げます。

皆様は横須賀をより住みよい街にするため、半世紀に渡り、様々な美化活動を精力的に行ってこられました。青木会長をはじめとする歴代会長並びに会員の皆様に、まずは心からの敬意と感謝の意を表します。

さて、同会が設立された昭和40年代は、国内では街にごみがあふれ、「ごみ戦争」という言葉が日常的に使われていた時代でした。適切な分別なくごみを焼却、埋め立てし、環境への負荷は計り知れないものでした。横須賀も例外ではなく、街の美しさを保つことが難しい状況の中、立ち上がられたのが同会の皆様でした。

「美しい町は美しい心をつくる」という信念のもと、地域での啓発活動や美化運動に取り組んでこられ、今では「クリーンよこすか」は、広く市民に深く浸透しています。

「私たちの町は私たちの手によって」を合言葉とした皆様の活動の一つ一つは、横須賀の街のみならず、市民の心をも綺麗に保ち、街の魅力を高め、郷土を愛する気持ちを育むことにつながっており、この50年の歴史の重みは、まさに「偉業」という言葉にふさわしいと感じています。

近年、ゼロカーボンや海洋プラごみなど、私たちが直面する環境問題は多様化しています。これを解決できるのは、まずはやはり、私たち市民一人一人の心がけであり、地域に根付いた皆様の活動なくしては、課題解決への前進はできません。美しい街と海、美しい横須賀を未来へ引き継ぐために、是非、皆様には、今後も横須賀の環境美化の良きパートナーとして、変わらぬお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、改めまして50周年という節目を迎えられましたことに心からの敬意と感謝の意を表しますとともに、貴会の更なるご発展と、関係する皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

このたびは、誠におめでとうございませう。



横 須 賀 市 長
上 地 克 明

このたび、「クリーンよこすか運動」が、50周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

昭和49年の「ごみ対策委員会」の発足以来、これまでの50年、多事多難な時代を乗り越えられてきたことと存じます。今日の充実した組織を築き、積極的な活動を実践してこられました、クリーンよこすか市民の会の歴代会長様を初め、関係の皆様への献身的なご労苦に対しまして、深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

振り返りますと、この市民運動が始まりました昭和49年当時のわが国は、都市化の波とともに、生活様式も大量生産、大量消費という構造が成り立ち、「使い捨ては美德」「ごみ戦争」という言葉まで生まれました。

そのような時代にありまして本市は、市民と行政とが一体となり、ごみ問題にいち早く取り組み、今日のようなすばらしい市民運動として確固たる基盤を築いたのであります。ごみの減量化や再資源化を推進することは、地球にやさしい環境づくりに先駆けた精神として、次の世代に豊かな環境を引き継ぐためにも大変重要なことでもあります。

「クリーンよこすか運動」は、市民全員がクリーンよこすか市民の会の会員という使命感を持ち、町の美化清掃や、キャンペーン活動などを全市的に行い、市民の間にすっかり定着した運動として、着実にその成果を挙げてこられました。これからも皆様の熱意あふれるお姿は、さらに多くの方々の共感を得ることと確信しております。

市議会といたしましても、市民の皆様や行政との連携をより一層密にし、ごみのない、きれいなまちづくりに全力を傾注して行く所存であります。

どうか、今後とも「私たちのまちは私たちの手によって」を合言葉に、美しく明るく住みよいまちづくりのため、より一層のご尽力を賜りますようお願いいたします。私のお祝いの言葉といたします。



横須賀市議会議長
大野 忠之

クリーンよこすか50周年に思う

半世紀はあっという間に過ぎてしまいました。各自の家の前にゴミ箱があった時代、タバコをどこでも吸っていた時代、50年の歳月は町の美化意識を大きく変えました。

自動車、電車、飛行機、そしてレストランから灰皿は消えました。

クリーン運動は家庭、地域、学校、企業、そして行政などが協力して活動できる体制になりました。

年齢に関係なく、「私たちの町は私たちの手によって」を合言葉にみなさんが声を掛け合って活動の輪が広がっていきました。町の美化活動はあいさつ運動をともない、自然に地域の人同士が顔見知りの関係になりました。

最近の清掃活動では、道行く人から「ご苦労様、ありがとう」と声を掛けられる事が多くなりました。この声を掛けてくれる人たちは、絶対に町を汚すことはありません。町中にこの声が響くよこすかになれば、もっともっと、素敵なよこすかになっていくことと思います。

この運動がスタートした時誕生した市民は50歳を迎えます。

次の時代のまちづくりの主役は、若い市民の方々と経験豊富な先輩諸賢のみなさんであります。

時代の変化は、益々スピードをあげて新たな世界をつくっていきます。

この変化をしっかり受け止めながら、みなさんで「住んでよかった町、働いてよかった町」をつくっていきましょう。



クリーンよこすか市民の会
広報部会長 上田 滋
中央地区会長

寄稿文

クリーンよこすか市民の会50周年を記念して、クリーンよこすか市民の会の幹事より、「クリーンよこすか」への想いをお寄せいただきました。

(※) クリーンよこすか市民の会幹事とは、各地区市民の会会長、関係団体の委員、各部会代表委員から構成されています。

継続の50年を更に繋げて

安浦地区 会長 竹之内 憲義

「ごみは見つけた時に拾う」

仲間と語りながら、散歩しながら、何時でも冒頭のフレーズが頭にあれば、自然に手が動く。そんな意識で、ごみの無い公園、道路になっていく。

世界的な統計を見ても、クリーンな街は治安が良い。

より住みやすい街を目指して、個人からグループ、そして「クリーンよこすか」から全国に。

外国から訪れた人が、同じ意識を持って、ポイ捨てしない！

環境美化を50年続け、更に繋いでいくことを実践したいと思います。



続けることの大切

山崎地区 会長 中谷 始

『クリーンよこすか市民の会活動50周年』誠におめでとうございます。

この活動がこれまで続けられたのは、会長様はじめ関係者の皆様のご尽力の賜物と感謝しております。「私たちの町は私たちの手によって」の合言葉で続けられてきた活動は本当に大切な事だと思います。我が地域に山崎小学校がご座います。

昨年より、小学校の「地域との繋がりを」とのテーマのもと、クリーンよこすか運動の一環として生徒さんたちと地域の有志で三春公園の清掃を行っています。

先日行われた清掃では一時間程で、大きなビニール袋21袋（落葉・紙くず・吸い殻・缶ビンなど）を回収致しました。生徒さんたちの真剣に清掃に取り組んでいる姿は、「より住みよい町横須賀」の実現にまた一步近づいたように感じました。これからも可能な限りこの活動を続けて行きたいと思います。



進行中の危機「プラごみ海洋汚染」

堀の内地区 会長 青木 勝

堀の内駅前には整備計画により長年継続の植樹帯清掃活動は終了となった。公衆トイレ周辺の除草・清掃及び祭礼・健民運動会等各行事開催時には地域の繋がりを感じながらクリーンよこすか運動を展開しています。

さて現代生活に欠かせない存在のプラスチック、ポイ捨てされる“プラごみ”少なくとも世界で毎年800万トンが風や水に流され街中から海に流失し、破碎されマイクロプラスチック（5mm以下）になり、分解されず深刻な海洋汚染の原因に。食物連鎖を通じて有害化学物質が人体にも入り健康への影響も懸念される。2050年には海中の“プラごみ”の重量が魚の重量を超えると試算結果。一刻も早く日頃の生活の中で一昔前の「もったいない」のライフスタイルを思い出し実践していきましょう。

直ぐに出来る事は「Reduce」ごみを出さないことです。



黄みどり色のメッシュベスト

上町地区 会長 五ノ井 正志

私が住む町内には5人のクリーン委員がいます。

「クリーンよこすか」の名前入りのメッシュベストを着用して町内のゴミ拾いを行っています。防犯・防災用のベストと同色で町内を巡回することは清掃と防犯・防災を同時に行っていると思っています。

黄みどり色のメッシュベストを着て、長いトンゴとごみ袋を持って町内を回っていると良く目立つのが、お年寄りや子どもたちから、「ごくろうさま」「ありがとう」の声をかけられます。

やっていて良かったと実感します。草狩りをしていない草むらにビン・缶やペットボトルが投げ捨てられています。

草狩りをするのが町内をきれいにする一助になるのではと思います。

きれいな町へ

上町第二地区 会長 石井 裕一

私が子どもの頃、自分が住んでるこの地域は、こんなにもごみのポイ捨てが多くあったらうか？

コンビニエンスストアの普及により、小売商店が年々減少して、容易にコンビニで物が買え、町中には食べ歩きしている若者や子どもの姿を見かけ、食べ終わったごみをポイ捨てする光景を、よく見かけます。

しかし、学校でポイ捨て禁止を教えているのかは疑問です。そのポイ捨てされたゴミを片付けるのは、大人です。

若者や子どもたちが、ポイ捨てせず、自分たちの住む町をきれいにするという気持ちや考えを持ってもらいたいと思います。



坂本地区

坂本地区 会長 飯塚 喜昭

坂本地区市民の会のクリーン活動は、各町内会で定期的に行われている積極的な清掃活動やポイ捨て防止運動を中心に、毎回、のべ30名～50名で実施しています。

また、その他にも、開国祭花火大会時のボランティア清掃活動や、近隣の小中学校と協力し、地域の環境美化とポイ捨て防止を目的にその啓発活動も実施しています。

桜小学校で行われる環境美化のポスター展示会では、幼児から中学生まで、40点近くの作品を展示し、保護者や地域住民に見ていただくことで、環境美化への啓発意識をさらに高めてもらえるよう工夫して実施しています。

このような活動を今後も継続して行えるよう、地域の繋がりを意識し大切にできるようなクリーン運動を進めていきたいと思っています。



クリーンな町を守るために

汐入地区 会長 臼井 治房

私たちの汐入町は汐入駅周辺の市街地と谷戸の地区からなっており、クリーン活動への対応も市街地と谷戸地域では多少の違いがあります。

ポイ捨ての一番はタバコでしたが、近年では喫煙者の減少もあり、駅周辺や市街地でも大変少なくなりました。

谷戸地域では春先のカラスによるゴミの散乱に悩まされ続けましたが、ゴミ集積場に柵を作ることで改善した町内もあります。



これまで8月に開国花火大会が開催されていた時には、全7町内会で翌朝にヴェルニー公園の清掃も実施してきました。



今後も汐入全町内で、クリーン活動に取り組んでいきたいと思っています。



オックリンの夢

追浜地区 会長 藤島 紀雄

オックリンの頭は巨大で、業務用エレベーターには入りきらなかった。

顧客用に乗ると、子どもが群がった。

姓は追浜、名はクリーン。

愛称“オックリン”は、追浜クリーン市民の会委員200人を束ねた。

委員はグリーンのカップ、Tシャツ、ロンT、ジャンパー、手袋に身をかため、ゴミ拾いをした。

追浜再開発が竣成して、○年。

オックリンはもういない。

クリーンの委員たちも、もういない。

気がつくと、街にはペットボトル1本、たばこの吸い殻1本も落ちていない……。

そんな夢を、見ている。



町内ゴミ問題について

田浦地区 会長 西宮 哲夫

わが町内のゴミ問題は、外国の方々が増えて、マナーが少し悪くなったことです。

これに対しては、分別のパンフレットを手渡すことで対応しました。

また、単身者用アパートが増えてきて、横浜・東京と遠くのオーナーが多く、なかなか連絡が取れずに困ったことです。これに対しては、町内の人達が順番でゴミの整理をしてくれて改善されてきました。

最終的には皆の意識の問題です。ゴミが落ちていると『自分も捨てて良いのかな?』とってしまうこと…困ってしまいますよね!

皆がきれいな町を願って、ゴミをきちんと処理すれば良いのですが、現状では、町内で週1回、駅前や小学校前のゴミ拾いをしています。

ゴミ拾いをするのではなく、ゴミを捨てない町内になってほしいですね! クリーンよこすか市民の会の活動は、50年を経てもまだまだ重要です。



地域の宝を守るため

逸見地区 会長 鈴木 公男

逸見地区は、古くからの住民と、新しく住むようになった住民がおり、多様な地域となっています。

逸見地区では毎月第1日曜日を地域ぐるみで街をきれいにする運動として、各町内会・自治会での町内一斉清掃の日とし、日ごろから地域を綺麗にするため活動しています。また、コロナ禍では一時見合わせていたキャラバン隊キャンペーンも、昨年から再開でき、町内会ごとに決めたコースでゴミ拾いやティッシュ配布を通して啓発活動を行っています。

逸見には自然豊かな清流でしか生息できないゲンジボタルを見ることのできるほとるの里や、桜の名所で開花の時期には多くの人を訪れる県立塚山公園など、自然豊かな名所が数多くあり、このような地域の宝を守っていくため、今後もクリーン美化活動を進めていきたいと思っています。



美しい町は皆の手で

衣笠地区 会長 長瀬 澄子

私達衣笠地区は、史跡と縁に回まれた美しい町で、小・中・高校があり教育的にも恵まれた環境にあります。

クリーン活動の意識も高く、衣笠地区のシンボルである平作川の清掃活動は、今年で25回を迎える大切な継続事業で、小学生から高校、そして地域の方々と協力しながら、多い時には900名を超える参加者で、川の清掃を実施していることを誇らしく思います。

全市で行われるポイ捨てキャンペーンやキャラバン隊キャンペーンも、地区を上げて取り組んでいます。

自然や環境を守ることの大切さを感じながら、次の時代を担う子ども達と一緒に、この活動を推進して行くことは大切です。

「美しい町」がいつまでも続くように、と願っています。



クリーンよこすか運動

大津地区 会長 唐澤 清男

クリーンよこすか運動50周年おめでとうございます。

まず私が率直に思うことは、全市的にポイ捨てごみが、かなり減り、見違えるようになったなと思います。

大津地区のキャンペーンでは、毎年100名以上の方が出席し、活動を盛り上げていただいております。

この10年の間、コロナ禍で思うように活動が出来なかった事も多くありましたが、きれいな街が維持できているのは、一人ひとりの地道な努力であると思います。

ポイ捨てごみがなくなる事は難しい事だと思いますが、これからも継続はもちろん、一步一步、前進していきたいと思えます。

今後も更なる発展を目指し、全市民一丸となり活動していきましょう。



住みやすい環境を次世代へ引き継ぐために

浦賀地区 会長 山田 藤男

クリーンよこすか市民の会が50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。
これまで、浦賀駅前や浦賀ドック近くのプロムナードで日々のクリーン活動を通じ、地域の皆様とともに美しい街づくりに貢献してまいりました。

今年は新たな試みとして、9月に支え合い協議会や包括支援センターと連携し、「認知症介護者との交流とクリーンキャンペーン」を、初めて実施しました。

新たな仲間と交流しながらの活動は、一層意味深いものとなり、「地域への愛と誇り」を、再確認する機会となりました。

浦賀を美しく保ち、住みやすい環境を次世代へ引き継ぐために、皆様と共に、これからも活動を続けてまいります。

ご支援とご協力に心より感謝申し上げます。



元気で楽しいクリーン活動

鴨居地区 会長 鈴木 哲

50周年という記念すべき節目を心からお祝い申し上げます。

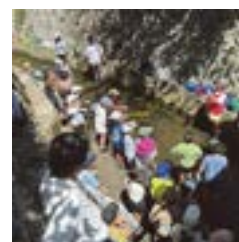
鴨居では、毎年恒例の和田川クリーン作戦を通じて地域の小学生と共に、環境保護の大切さを学んでいます。

同時に観音崎自然博物館の方々にお力添えいただき、生き物観察と地域の自然環境保護についての授業も行い、次世代に自然の大切さを伝える貴重な機会となっています。

さらに昨年10月には、防衛大学のボランティアの方々と観音崎の海岸清掃を、今年6月には鴨居中がフィールドワークの授業で、地元の清掃をしてくれました。

地域の多様な団体との連携を強化しながら、にぎやかな夏場だけでなく、シーズンオフの風景も大切にする活動を続けています。

これからも、多くの方々と協力しながら、元気で楽しいクリーン活動を企画してまいります。



歴史と文化の街久里浜の更なる発展

久里浜地区 会長 大谷 均

歴史と文化の街の久里浜は、奈良創建の八幡神社や古墳や住居跡などが発見されています。軍事地域から、新時代へと転換される街です。海と陸の交通の利便性があり、南警察署、Fマリノス、TBMができ、市立総合医療センターも開院されます。市民の会は、推進委員や諸先輩方のご努力により継承されてきました。地区会議は様々な講演を開催しています。施設見学会は、石けんプラントやレゾナック事業のイノベーションを支える製品の見学をしました。キャンペーンやキャラバン隊は、推進委員、青少年推進、中学生徒、高校生徒などと実施し、美化への協力を呼びかけました。若い学生達と青少年育成推進委員とクリーン推進委員のコラボで地域一体となった活動です。

今後も歴史と文化の街を次の世代に引き継ぎ私たちの街は、私たちの心の文化の継承を推進したいと思います。



綺麗な街を次世代に

長沢地区 会長 安部 久夫

私たち長沢地区市民は、クリーンよこすか市民の会と共に、町の美化啓発に取り組む、ごみのない町づくり、そして綺麗なごみの無い町への実現に向け、クリーン活動を実施しております。

又、地域には風光明媚な海岸に、季節を問わず遠方から沢山の方が見えます。

地域として恥ずかしくない海岸にしたい、との思いで、年に数回の海岸清掃に努め、地域の方々と取り組んでおります。

これからも、多くの方とごみの無い町作りに取り組み、住んで良かった長沢と言われる綺麗な地域に一人一人に啓発しながら取り組んでまいります。



津久井地区市民の会の活動

津久井地区 会長 加藤 隆一

津久井地区市民の会では、より多くの人々にクリーンよこすかを周知し、幅広い市民運動へ前進させることを目的として、毎年6月、クリーンよこすか推進月間に合わせ、全12町内会が協力してクリーン活動を継続して実施しています。

毎年10月には、クリーンよこすか強調月間に合わせ、京急電鉄やJRの主要駅周辺の早朝クリーン活動を実施するとともに、京急津久井浜駅から2～3グループに分かれて法蔵院の門前を目指してクリーン活動を行うキャラバン隊キャンペーンを実施しています。

ウインドサーフィンワールドカップ大会が例年開催されるようになってからは、世界中から注目を集める海岸となり、地域住民もこれを大歓迎し応援します。全町内の住民が一丸となって海岸のクリーンパトロール等を実施し、ご来場者が綺麗で爽やかに観戦して頂ける様に応援しています。このような活動を、今後も継続して行ってきたいと考えています。



武町内会のクリーン活動

武山地区 会長 齊藤 光太郎

私は武山地区の武町内会会長ですが、我々のクリーン活動について紹介致します。

1. 町内一斉清掃・クリーン表彰

毎月第3日曜日の朝、町内一斉清掃を実施しています。武町内会内には164組があり、組ごとに清掃場所を自主的に定め実施しています。毎月実施していると、ほんの10～15分間程の清掃や雑草取り活動で見違える程に綺麗になります。しかし近年では参加する方が減少してきており、その対策の一つとしてここ数年「一生懸命清掃等のクリーン活動に取り組んでいる団体・個人を武町内会で毎年「クリーン表彰」しております。

2. ごみ集積所のカラス対策

特に燃えるごみの日には、ごみ集積所にカラスが集まり、集積所に被せたカラス対策用ネットの下の方から残飯等を引き出してしまいます。そこでごみケースの下の方にプラスチック板を取り付ける対策を行っています。(写真参照)このプラスチックの板は町内会役員が製作し、希望者に配布しています。



風光明媚な街の美化活動

大楠地区 会長 新倉 繁

クリーンよこすか市民の会の活動を通じて町の清掃活動に参加し思うのは、町はゴミ箱ではない。我々の住む町は、観光ドライブ道路とし風光明媚な場所として、多くの観光者が来ますが、周辺道路にはゴミの放置が散見されます。不法投棄も多々あります。私はボーイスカウト活動をしておりましたので、常に自然への感謝の気持ちと、より良い世界を残す事を目標に活動をしてまいりました。一人ひとりがこの町の美化に心掛け、次の世代に継承する教育が必要と思われれます。あいさつ運動も地元の小学校・中学校共に生徒さんが気持ちよくあいさつする姿は地域の自慢です。是非これからもきれいな町づくりとあいさつの声が響く町へ、50年の長きにわたり先人達の残してくれた活動を継承してより良い町にして行きましょう。



親子クリーンピクニック

長井地区 副会長 光山 一彦

クリーンよこすか長井地区市民の会の副会長に就任して、もう10年近くになります。毎年、6月に実際している「親子クリーンピクニック」についてお話しさせていただきます。荒崎から長浜までの海岸の清掃を行っています。私が就任当初は、荒崎シーサイドコースでできていました。実施日1週間前には、役員でコースの草刈り等、大変な事も多かったですが、子どもたちのゴミを拾い合う姿を見る事で救われる想いでした。子ども会の協力もあり、親子でクリーン活動を行うことにより、未来を担う子どもたちにも大切な何かを伝えることができている気がします。

自衛隊のみなさんの参加もあつたりで、毎回100名以上の参加で盛り上がっています。現在は台風の影響でシーサイドコースが危険な面もあり、荒崎～ソレイユの丘～長浜に変更になりましたが、子どもたちが多く参加する活動は続いています。



クリーンよこすか推進部会の活動

推進部会 会長 太田 信吉

推進部会は、市内各地区市民の会から推薦された40名で構成されております。

行政、企業、学校、米海岸基地の皆さん等、数多くの方々と一緒に、市民はもちろん、来訪者の方々も気持ちよく過ごせる環境になるよう、日々「私たちの町は私たちの手によって」を合い言葉に、「町をきれいにする活動」「規則やルールを守る活動」「ふれあいを高める活動」を、目標に向かい行っております。

最近の活動では「ごみが少なくなった」「町がきれいになった」「タバコのポイ捨てが減ってきた」との声と同時に、「ありがとう」「ご苦労さま」といった言葉も多くいただいております。この事は、今日までの長い間活動を続けてこられた諸先輩の取り組みが、形となって表われた成果だと思えます。

今後も推進部会全員が一丸となりクリーン活動を進めてまいりますので、市民の皆様、関係各位の皆様方のご支援、ご協力を、宜しくお願いいたします。



50周年の感謝

横須賀商工会議所 工藤 幸久

クリーンよこすか市民の会活動が50周年を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。

「私たちの町は私たちの手によって」を合言葉に、半世紀にも亘り、地域の美化に尽力されてこられた会員の皆様の努力と情熱は、地域住民の絆を深め、「クリーンなまちづくり」に対する意識を高める重要な役割を果たしてきました。

この50年の間、清掃美化等の実践と啓発に、多くの方々が清掃ボランティアとして参加され、共に汗を流し、笑顔を交わしながら活動を続けた結果、「横須賀」はゴミの少ない住みやすい街へと変わりました。

美化活動は、一人ひとりの手によって支えられています。次世代に美化活動を引き継ぐためにも、今後も力を合わせ、さらなる取り組みを続けていきましょう。

地域とともに生きる

横須賀青年会議所 濱田 真悟

「クリーンよこすか市民の会」設立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

当青年会議所の先輩諸氏が横須賀市、関係諸団体と共に設立いたしました「ごみ対策市民委員会」が現在では市内全域で年間約6万人が集う地域に根付いたまちづくり運動に発展しました。永きに亘り地域社会のために寄与されてこられました皆様に心より敬意を表します。

横須賀青年会議所は明るい豊かな社会の実現を理想とし、地域の社会課題を解決すべく運動を展開しております。設立50周年の大切な節目の年を契機に、当青年会議所といたしましても、地域の皆様と共に心を通わせ邁進して参りますと共に、「クリーンよこすか市民の会」の益々のご活躍とご発展を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



子どもたちの未来へつなぐクリーン活動

横須賀市PTA協議会 杉山 亮

私はPTAに参加するまでは、街の美化は誰かがやってくれるものだと思っていました。しかし、PTAを通じてクリーンよこすかに参加することによって、少しずつ気持ちが変わってきたのです。

最初は正直「順番だから。役割だから」といやいや参加していました。でも、小さなごみを拾い、仲間と一緒に活動するうちに、子どもたちが学校に通う道や放課後遊びに行く道が少しずつきれいになっていくことで、街をきれいにすることの大きな意味を感じることができたのです。

そして今思うのです。

横須賀の美しい自然や海は、子どもたちに私たちが残す大切な宝物だと。美しい街は住む人の美しさであり、これから成長する子どもたちの心の美しさを育ててくれると思うのです。

クリーンよこすかの精神をつなぐ

横須賀市小学校校長会 逸見小学校 校長 白井 宏一

横須賀市立全小学校では、毎日の日課表に清掃時間を設定し、自分たちが使用している学校を清掃する活動を行っています。

本校では、給食終了後の15分間を清掃時間にしています。清掃用具は今でも「箒・塵取り・雑巾」の3点セットです。箒で塵を中心に集めることや、濡れた雑巾の絞り方などを活動のなかで学んでいきます。また集団で清掃活動する楽しさも体感していきます。4月初めは、入学したての1年生も自分たちの教室と廊下を清掃しますが、全7名では一苦勞です。数日間は、6年生に掃除の仕方を教えてもらいながら、コツを覚えていきます。



地域の皆様からも、様々な活動を通して学び、自分たちが住んでいる街を自分たちでクリーンを保つ、クリーンよこすかの精神につながっていけばと願っています。



地道な活動の積み重ね

横須賀市中学校校長会 馬堀中学校 校長 平石 拓

市内中学校では、日常の清掃や長期休業前等に行われる大掃除、部活動後の清掃、学校によっては地域と連携した清掃活動が行われている。

清掃を通して、掃除に対する意識や習慣だけでなく、社会性や協調性、思いやり等、生徒が成長する上で大切なものを養うことができる。目の前にごみが落ちていたら自然に拾える、物が散乱していたら自ら片づけられる等の感性を育んでいきたいと思えます。

本校では地域美化デーと銘打って、各町内会・自治会の方と生徒と一緒に道路や公園等の地域清掃を行っている。このような日々の地道な活動の積み重ねが、美化意識を高め安全な生活環境を創ることに繋がる。

環境は生活の基盤である。学校や街全体が安全安心で平和に過ごせるためにも、クリーンよこすかの精神を大切にしたい。



町をきれいにしたい

横須賀市資源回収協同組合 藤田 和秀

平成17年、当時の西原会長と「町をきれいにしたい」という志が同じだったことから意気投合し、クリーンよこすか市民の会の一員となりました。

微力ながら、毎年5月30日に行っている「ごみゼロ啓発キャンペーン」や、「みこしパレード前大通り清掃」に参加させていただいておりますが、昔と比べると、ポイ捨てごみの量は減ってきているように思います。

当組合としては、資源物のリサイクルを推進するため、横須賀市で行っている「アイクルフェア」や「ごみトーク」に参加し、市民啓発を続けております。

クリーンよこすか市民の会の目指す「きれいで明るく住みよい心豊かなまちづくり」の実現に向け、当組合も活動を継続していきたいと思っております。



点から線へそして面へ

横須賀市老人クラブ連合会 加藤 春樹

昨年大谷翔平選手の活躍に心を躍らせた方も多いでしょう。また彼がグラウンドに落ちているゴミを拾う姿は記憶に新しいところです。

高校時代からゴミ拾いやトイレ清掃を率先して行なっていたそうです。彼は「一流・トップの人間になるのは、小さなことからコツコツとやる人、真面目にやってきた人」だと言います。大谷の「投打走の力」は凄い。もっと凄いのはチームの打線の繋がりだ。彼の個の力という点が、チーム打線という線へと繋がり、そして世界のファンという面へと繋がる。

クリーンよこすかの活動も「一人ひとりがコツコツとゴミを拾う」、それを見た子どもたちが、「ゴミのポイ捨てをせず拾おう」となる。

こうした私たちの小さな活動が、人から人へと繋がり、横須賀市の総ての市民へ繋がっていく。

点から線へそして面へと！綺麗な輝く街横須賀へと！

クリーン活動により変化した意識

横須賀商店街連合会 越川 昌光

街を歩くとゴミの散乱が多く目立つ中、特にタバコのポイ捨てが目飛びこんてきます。

私も電子タバコを喫煙します。

しかし、クリーンよこすか市民の会に参加してから、ポイ捨てには充分配慮して、この横須賀の街並をゴミのない街、きれいな街を意識するようになりました。

ゴミを持ち帰る。

タバコを吸う人もポイ捨てがなくなれば、この横須賀は世間に認められる街になるでしょう！！

街の美化は自分たちの手で！！



私の思うクリーンよこすか

京浜急行電鉄株式会社 横須賀中央駅 駅長 鈴木 寛

このたび、クリーンよこすか市民の会が創立50周年を迎えられたことにお祝い申し上げます。

また、さまざまな活動を継続していただいたことに敬意と感謝を申し上げます。

さて、私の思う数十年前の町や駅のホームというのは、大きなゴミ箱や灰皿があるにもかかわらず、タバコの吸い殻やごみのポイ捨てなどが当たり前であり、「きれい」「クリーン」なイメージはありませんでした。

しかし、さまざまな活動をしていただいたことで、一人ひとりの意識が変わり、町全体をきれいにするようになりました。そしてその相乗効果で、駅のホームもきれいになってまいりました。まだまだ100%とは言えませんが、この取り組みを続けていただくことで更なるクリーンな町になり、誰もが気持ちよく駅をご利用いただけるようになることを期待しております。

今後も貴会のますますのご発展お祈り申し上げます。



地域の皆様と共に

東京電力パワーグリッド株式会社藤沢支社
横須賀事務所長 服部 明弘

「クリーンよこすか市民の会」50周年、おめでとうございます。

この節目を迎えるにあたり、これまでの活動に対し心から感謝と敬意を表します。

環境保護の重要性が高まる中、皆様の地道な努力と情熱は地域社会に与えた影響は計り知れません。

当事務所では、毎月、事務所周辺の清掃活動を実施し、地域の美化に努めております。

この活動を通じて地域の皆様との絆を深め、共に住みよい環境を築くことを目指しております。

今後も、この活動を継続し、皆様と共に地域の発展に寄与できるよう努めてまいります。



50年の活動を未来につなぐ！

湘南信用金庫 理事長 鷺尾 精一
常務理事 風呂本 将憲

クリーンよこすか市民の会、50周年おめでとうございます。このような活動を永續展開され、共に参画させていただいている事に感謝申し上げます。「私たちの町は私たちの手によって」というスローガンは、行政、地元企業、市民がまさに「三位一体」となっこそ達出来るものだと確信しております。

我々、湘南信用金庫も「SDGsの推進」や「環境保全」、「まちの美化活動」には積極的に参画しており、「ボランティア同好会」を設立し、横須賀市が実施している小型家電の回収協力や、海洋プラごみの削減を目的とした海岸清掃活動にもスタッフの派遣を積極的に行っております。

これからも、地元企業としても、個人としても美化活動への意識を高め、未来の子どもたちに、文字通り「クリーンな横須賀市」を紡ぐ活動を実践して参ります。



これまでも、これからも

かながわ信用金庫 会長 平松 廣司
理事長 高瀬 清孝

「クリーンよこすか市民の会」設立50周年に対し、お祝いを申し上げます。

かながわ信用金庫は、これまでも地域や環境にやさしい信用金庫を目指し、地域の美化活動や環境保全の実践と啓発に取り組んできました。

これからも人とのつながりを大切にしつつ、お役に立つ信用金庫として、すべての人が住みやすい地域社会となるよう貢献してまいります。



株式会社トライアングル 秋澤 智信

50周年、おめでとうございます。半世紀という活動の節目に、微力ながら活動の一端を担うことができ、嬉しく感じています。

「クリーンよこすか」に携わって、もう10年以上になります。当社の「YOKOSUKA軍港めぐり」を運航している汐入エリアでの清掃イベントが、初めての協同事業でした。

以降も、「市民のつどい」で清掃活動の発表の場を設けてもらったり、周辺の小中学校と連携するきっかけをもらったりと、企業として成長する機会をたくさん与えていただきました。

これからも、「猿島」や「軍港めぐり」・「浦賀の渡し」をはじめ、観光に訪れる方々に気持ちよく横須賀を体験してもらえるよう、率先して街の美化活動に取り組んでいきたいと思えます。

ふるさと横須賀が好き

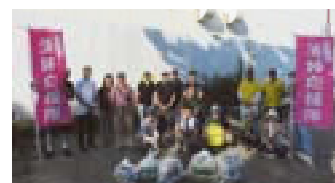
クリーン清掃応援隊 山口 里美

クリーン清掃応援隊発足当初より参加してきました。唯々、「自分の家の周りをきれいにしたい、横須賀の町をきれいにしたい、自分が歩く道にごみが落ちていないことが当たり前になる。」そんな町に暮らしたい、そんな思いで活動に参加してきました。

最近、朝の散歩をしながら、ごみを拾っている方を見かけます。町をきれいにしたいと思う方が増えていることをうれしく感じます。

清掃応援隊には、様々な思いで参加されている方がいらっしゃいますが、お会いすると皆さん楽しそうに活動されています。

これからもふるさと横須賀を、ずっと好きでいてもらえるよう、また、子どもたちに美しい横須賀を残せるよう、小さい力ですが、続けていきたいと思えます。



令和元年（2019年）ごみゼロ啓発キャンペーン